

生徒・保護者の皆様へ

能登半島地震により犠牲となられた方々に謹んでお悔やみ申し上げるとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

現在も余震が続く中、様々な不安を抱えてお過ごしのことと思いますが、引き続き安全に留意して行動してください。

学校の被害状況ですが、グラウンドを囲むように配置されている照明塔・防球ネットの支柱の傾き、橋と道路の段差等に地震の爪痕を感じます。校舎内の状況ですが、棚・机が倒れ、物が散乱していましたが、4日（木）に出勤できた教職員によって復旧することができました。校舎は生徒の皆さんの学習活動が可能な状態です。

1日（月）の地震発生直後から3日（水）の17時まで、本校第1体育館を避難所として開設しました。津波と余震に備えて地域住民の方々を中心に毎日100名超の方々が避難され、過ごされました。中には、珠洲市内に予約した旅館が被災し宿泊不可能となったため、本校で一晩過ごされた県外からの旅行者もいらっしゃいました。避難所運営にあたっては本校教職員を中心に卒業生や保護者の皆様等も献身的に協力してくださいました。避難所を後にする皆様から、不十分で不便な環境であったにも関わらず、感謝の言葉を賜り恐縮するばかりでした。

あらためて、日々の教育活動が家庭、学校とそれらを支える社会があってはじめて成り立つものであったことを痛感いたします。学校は断水が解消されれば再開できる状態ですが、生徒・保護者・教職員の家庭も被災し、JR七尾線・のと鉄道は復旧の目途が立たず、道路も寸断されているところが多いことから、通学が困難な状況です。通常の学校生活に戻るまでに乗り越えなければならぬ課題が山積みです。

そのような中、13日（土）・14日（日）の大学入学共通テストや私立大学の出願を控えた3年生を中心に1・2年生からも、「無事」との連絡とともに「学び」についての問合せが多数ありました。それぞれの家庭や地域で復旧作業や避難所運営等に献身的に取り組み、時間的・物理的に厳しい環境の中でも、前に進もうとする生徒の皆さんの力強さに、「何でこんなことになったんだ」と悔やみ、時計の針が戻ることばかり願っている自分はハッとさせられました。目が覚める思いでした。

その結果、「出来ることから始めよう」ということで、4日（木）から3年生への調査書の交付と演習問題の配付等を始めさせていただきました。9日（火）までに80%を超える来校者があり、生徒・保護者の皆様の熱い思いを目の当たりにしました。その一方で、来校できない方々がいることから、置かれている現状の厳しさをうかがっております。本来ならば、全員が出来る状態で始めたいところですが、やむを得ず、今は出来ることから始めさせていただきました。

教科書・端末（オンライン授業で活用）等の持ち帰りに加えて、9日（火）から3年生、10日（水）からは全学年の生徒が教室で学習できるように学校を開放します。今後さらに出来ることを増やし、学習を継続できるように努めてまいりますので、何卒ご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様の安全確保と、一日も早い復旧・復興を心より祈念いたしますとともに、全生徒の心のケアと「学びの保障」・「進路志望の実現」に教職員一同手を携えて取り組んでまいりますので、よろしく願いいたします。

令和6年1月9日
石川県立七尾高等学校
校長 樋上 哲也